

平成 29 年 8 月 16 日

上越市長 村山 秀幸 様

浦川原区地域協議会  
会長 藤田 宏 裕

## 浦川原区の若者の暮らしにおける交通機関の利便性と 安全性の向上について

当協議会においては、平成28年11月19日に「ここが大好き！みんなで描こう明日の浦川原」をテーマとして、浦川原中学校2年生と意見交換会を実施し、中学生から出された意見や提案について、整理や協議を行ってきたほか、以前から交通機関等の利便性において、協議をしてきたところです。

また、若者をはじめとする区内の住民が暮らしやすく、若者から将来にわたり住み続けてもらうには、交通機関の整備が必要と考えております。

その中でも、ほくほく線沿線に二つの駅を持つ当区においては、北陸・上越両新幹線や他の路線への接続手段として、また、通勤、通学を始めとする移動手段としてのほくほく線の利便性の向上は必要不可欠であるとともに、他の公共交通機関等についても利便性や安全性を高めるための整備に取り組んでいくことが、課題の解決につながっていくものと考えております。

については、利便性や安全性の向上のために、下記について関係機関及び事業者に積極的な働きかけをお願いします。

### 記

#### 1 「ほくほく線」の電車内のトイレ設置について

北越急行株式会社が運営する「ほくほく線」においては電車車両内にトイレがないことから、利用者はトイレの使用を我慢したり、停車中に駅舎のトイレを利用するため下車するなどの対応を強いられ、別紙のような意見が多数聞かれます。

私たち浦川原区の住民は、通勤や通学、行楽など様々な場面で利用していますが、トイレのないことが支障となり利用をためらっている人や、不便を感じている人が多くいることから、乗客の利便性を向上し利用客の増加を図るためにも、北越急行株式会社に対して、トイレ設置の実現に向け働きかけが必要です。

#### 2 信号機の設置について

浦川原区山印内地内の国道 253 号と市道山印内線との交差点は、上沼道へのアクセス交差点となったことから交通量が多く、また、店舗が隣接していることもあり、車両の流れが複雑で、現に交通事故が多く発生しており、交通事故がさらに増加することが懸念されるため、信号機を設置し安全性を高めるよう設置者である新潟県公安委員会に働きかけが必要です。

「ほくほく線」の電車内のトイレ設置に関して寄せられた意見等

- ・ 高齢化社会の中で、なぜ電車内にトイレが設置されていないのか。
- ・ 駅舎のトイレを使っている間は電車が待ってくれると聞けるが、たった一人のために他の乗客が待たされることを考えると利用しにくい。
- ・ 時刻表どおりに運行するのが前提である電車が、トイレの利用者により遅れを取り戻すためにスピードを上げることで、JR西日本の福知山線のような事故が起こる危険性はないのか。
- ・ 幼児が我慢できずに途中の駅で降りざるを得なかった。
- ・ 松代駅のトイレへ入ったら電車に乗り遅れた。
- ・ 孫を連れていて、途中でトイレと言われて困った。